

レジリエンス(逆境を乗り越える力)

校長 吉田 隆

レジリエンスとは、もともと心理学の分野で使われていた概念で、困難や脅威に直面している状況に、うまく適応できる能力を意味します。言わば、逆境を乗り越える力です。

ウイルス禍の二年間は、まさに逆境の日々。教育現場も休校・分散登校からはじまり、その後も、制限続きの学校生活が続いています。給食時は黙食、休み時間の遊びのスペースは学年別、各種行事はオンラインを多用、マスク生活は感染防止の基本ではあるものの、相手の表情を読み取ることに苦慮する日々です。

六年生は、小学校生活のラスト二年を、このような逆境の中で過ごしてきました。修学旅行や運動会などは感染防止を徹底しながら実施できましたが、大きな活躍の場であったタンポポ盆踊り大会や新潟祭りが二年連続で中止を余儀なくされたことは残念でなりません。地域のつながりや活性化を目的とするこれらの取組の停滞は、子どもたちにとっても、地域にとっても大きな痛手でした。

しかし、六年生の「総合的な学習の時間」で新潟青年会議所（JCI）とコラボして取り組んだ未来の新潟祭りを考える取組は、この状況に一条の光

を当ててくれました。

子どもたちが、「お菓子投げ祭り」、「学校みこし大会」など、みんなが集い楽しめるお祭りを考える中で、実現可能性が高まっているアイデアがあるのです。

先月、青年会議所の皆さんから、六年生のアイデアの一つ「灯籠流し」が実現に向けて動き出しているとお話をいただいたのです。

信濃川の川面に光る灯籠が、新潟祭りの新しい風景を創り出すかもしれない。

アイデアの源泉は、今年度の六年生です。全校のリーダーとして新潟祭りに参加することはできませんでしたが、未来の新潟祭りを提案することで、地域の活性化に貢献しようとしています。逆境を乗り越える力を示した六年生を誇りに思います。

ロシアのウクライナ侵攻に象徴されるように世界は益々不安定になり、かつ不確実性が高まっています。

そのような状況下においても、新潟小での学びを土台として、レジリエンスを発揮して、平和で幸福な未来社会の構築に貢献できる大人に成長してくれることを期待しています。

子どもたちの未来に幸あれ！

